

令和4年度事業計画

(今治明德高校・今治明德高校矢田分校
・今治明德中学校)

令和4年3月

令和4年度事業計画

本計画は、「建学の精神と学園の使命」を達成するため、策定された「ビジョン」をもとに、中長期計画（令和3年度～7年度）を策定したが、そのうえで令和4年度（単年度）に実施すべき目標を示すものである。

基本理念

今治明德学園の建学の精神は「大学の道は、明德を明らかにするにあり、民を新たにするにあり、至善に止まるにあり」であり、とりわけ「明德を明らかにする（人間一人一人が生まれながらにして心の中に存在する徳を磨くこと）」という部分に精神の重心が託されている。この精神に則って、教職員と学生が共に学び合うなかで、「徳」を磨き上げ、美しく、たくましく生きていく力を昇華させること、そして時代の変化に先駆けながら、社会が求める人材を輩出し、もって社会に貢献し続けることが本学園の使命である。

取り組み目標（今治明德高校・矢田分校・今治明德中学校）

地域の生徒（児童）・保護者から選ばれる学校を目指して

今治明德高校・矢田分校・今治明德中学校が保護者から選ばれる学校になるためには、充実した学校生活（授業・部活動・学校行事等）、面倒見の良い対応、中学校・高校卒業後の進路保障などのはっきりした目標を掲げ、それぞれの目標のため一つ一つできることを地道に実践していかなければいけない。

令和3年度で

1. 教育課程・教育内容の見直し

生徒数増加を目指すためには中学・高校では推薦専願者を増やすことが一番確実な方法であるので、そのための対策を講じなければならない。地道ではあるが、各コースや各部活動を魅力あるものとして専願者を増やすことが大切である。

また、他校との競合の中で生き残るためには、本校独自、または高校生に支持されやすい教育内容や教材を設定したい。

効率的・魅力的な教育課程の作成

小学生、中学生が進学先の決定にあたり、この学校に行けば将来への道が開けるという「希望」が湧き出るような教育課程を策定しなければならない。

① 本校

《令和5年度に向けて》

【進学・総合コース】

令和3年度、本校の教育課程については普通科の中での総合コースの4系列の設定を廃止した。次の段階は一クラスの生徒数を30~40名になるように進学・総合コースを統合し、効果的、効率的で、しかも魅力ある教育課程を設定する。また、令和4年度は、令和5年度に向けて、全国的に先進的な取り組みに挑んでいる高校がすすめている「探求の時間」等を調査研究し、本校でも取り入れるようすすめていく。

【美容コース】（「+5名」を目指して）

入学者が頭打ちになっている現状の問題点等を考えながら、損益分岐点となる入学生徒数も考えて、その目標人数に達するためには、どのような方法をとればいいのか、その運営方法を再点検・再検討する。

※入学生・卒業生への聞き取り等で明らかになった苦情等にも対応しながら入学者増を目指す。

【チャレンジコース】（「+5名」を目指して）

全国的に通信制高校が生徒数を増やしている現状を踏まえ、学校に登校しにくい生徒に対応したこのコースはニーズが多くあり、工夫次第で現在より生徒数を増やせる可能性がある。以前よりまして学校行事等を参加しやすく、楽しい行事を増やし、できるだけ登校する意欲が出るような仕組みを作らなければならない。また、大学進学を意識する生徒のために衛星授業等の受講によって単位を認めていく等工夫する。

令和4年度の取り組みとしては、チャレンジコースにICT教育のための光ファイバー工事、WIFI等の整備ができたのでオンラインでのリモート授業を実施する。（これは教室に入りづらい生徒用で別室で個別に受講する）

今後一層、相談員の白石康子先生を中心に、コースの体系化と保護者との連携を深めていく。このコースの生徒・保護者のニーズをよく考え、まずは卒業することを第一に、つぎに希望する進路実現が叶うようサポートしなければならない。

また、チャレンジコースや中学校と連携したフリースクール等の運営開始も視野に入れて今年度中に必要とする生徒、保護者のニーズや市場調査等を進めていく。

② 分校

現在、生徒数減のため一学年一クラスの編成となっている。一クラスでは文系・理系別授業の同時開講は時間割作成上や出張等の授業交代等が難しいが、教員の負担は増えるが一クラスでも、能力別レベルに分けて授業等で対応する。そして、個人のレベルに対応した丁寧な指導をして、生徒・保護者の信頼を勝ち取らなければならない。

令和3年度には10月に学業奨学生（矢田分校一般入試の成績上位者150人は月2万円、上位300人は月1万円の奨学金を支給）の制度を作り、11月に募集したが、結局応募者はいなかった。残念なことではあるが、来年度からは受験生全体に周知されるよう広報を工夫したい。

入学生徒増加のためには、**矢田分校卒業生の国公立大学に合格者を増やす**ことが至上命題であることを教職員が肝に銘じておかなければならない。

特に矢田分校では以前より英語教育に特化していてそれなりの評価を得ていた。英語は文系・理系のどちらも入試で必須となるため非常に大切な教科である。

しかし、近年、矢田分校では英語の力が低下しつつある。しかしながら、学校案内等でも「英語の矢田分」ということを売りにしている以上、英語力を強化するシステムを再構築することが必要である。単語王・熟語王決定戦やシンガポール等への海外研修、英検準1級・2級などの資格取得に向けた講座開設なども充実・拡大する。

また、正規の授業の後、「プロジェクトA（エース）」という制度で、英・数・国の3教科において学力上位の生徒に絞った授業を実施して上位層の学力向上を目指す。

③ 中学校

教育課程については、学習指導要領のしぼりがあり、高校ほど独自のカリキュラムを実施できない。基本的には公立高校入学試験を見据えて教科書も公立中学校と同じものを使用しているが、英語は私立進学校の使用している教科書を使用しているため授業の内容は難しくなるが、かなりの生徒は英検2級・準2級に合格できている。そのため現在は、今治明德中学校の一番の売りになると思われる。この指導方針は今後も続けていく予定である。

「落ち着いた環境の中で、レベルの高い同級生と切磋琢磨しながらしっかりとした学力をつける。」

今治明德中学校のスタンスとしては、希望する高校に合格するのが目的ではなく、入学した高校でどれだけ活躍することができるか。つまり、「次の進路に向けてつながるような学力がつけられるかということに重点を置いて指導する。」ということを強調している。

また、毎日の放課後において質問等がある生徒に対して自習できる教室と教員を配置した「授業の鉄人」制度を実施したり、テスト発表期間中の午後6時まで学校で勉強する「プロジェクトα」、社会の授業の中で実施される「ディベート」、自分が読みたくなった本をみんなにプレゼンして、どの本が読みたくなったか聞いている人が決定する大会「ビブリオバトル」、百人一首の大判で札を取り合う「大判百人一首大会」などの行事等をこれからも進化発展していきたい。

※部活動の活性化について

① 本校

本校のアピールポイントとしてはやはり部活動の活性化は必要である。まずは、教員のモチベーションアップを図ることが部活動の活性化につながる第一歩である。

そのために予算配分も考えながら、部活動の選択と集中をすすめて「強化指定部」は陸上競技部と柔道部に絞り、部活動に対しては各種大会や遠征に対してサポートする体制も整える。そして、

令和3年度も陸上競技部と柔道部は各種個人と柔道女子団体は夏のインターハイと春の全国選抜に出場し、世間に強くアピールすることができている。

② 分校・中学校

分校、中学校の保護者のニーズは、あくまで学力向上が第一なので、学習活動に支障のないような形で、人間形成、体力づくりを兼ねて、生徒がある程度満足のような活動を保障しておかなければならない。

2. 教育環境（ICT 教育等）の向上

① 本校

本校はチャレンジコースに光ファイバー工事、WIFI 等の整備ができたのでオンラインでのリモート授業を実施し、他コースでは ICT 機器を利用した授業（有線 LAN での利用）を進めていきたい。

また、国からのコロナ関係特別補助金を利用し各クラス担任に全員に PC を貸与することができたので教材研究等授業をレベルアップできるようにし、校内 LAN 等の情報管理システムを整備し、仕事の効率化を進めていきたい。

② 分校

校舎 1, 2 階は整備することができた。まだ、生徒用タブレット端末は公立のように一人一台端末は支給されていない。（令和 3 年度に国からの補助金と中学校学力充実費等を利用）

また、国からのコロナ関係特別補助金を利用し各クラス担任に PC を貸与することができた。まずは、各クラスでのリモート授業も昨年度から実施しているがさらに効果的な方法を模索していきたい。

次に現在は数が少ない電子黒板等の ICT 教育設備を増やせるようにすすめていきたい。なお、各進学校が取り入れているオンライン英会話等をできるだけ早く実施したい。

また、施設設備面では各教室に電子黒板等の設備が不十分であるので、その整備もすすめていく。

③ 中学校

光ファイバー工事、WIFI 等は校舎 1, 2 階に整備することができた。また、生徒用タブレット端末は公立のように一人一台端末は支給されず、中学校で 1 学年分約 90 台は購入した。（令和 3 年度に国からの補助金と中学校学力充実費等を利用）また、令和 3 年度中に、電子黒板等の設備を全クラスに配備できたので、今年度も、約 80% の授業で電子黒板等を使用した ICT 教育を実施する。

今年度から、ICT 研修を実施し、効率的、効果的な教育方法を開発していかなければならない。

また、各常勤職員に ICT 授業用パソコンを貸与したので教材研究等授業をバージョンアップできるようにし、校内 LAN 等の情報管理システムを整備し、仕事の効率化を進めていきたい。

4. 広報・生徒募集の充実

① 本校

本校の生徒募集は各中学校へのアプローチが中心である。特に、中学校教員との信頼関係の構築をすすめるためには、中学校側からの声に耳を傾け、修正すべき点は修正して、言えば対応してくれる高校として信頼を得るようになることが理想である。

そして、効果的な各中学校訪問の時期、回数を考えて、しかも、訪問した中学校卒業生の現在の様子等をこまめにお知らせすることも必要である。

令和 3 年度は中学 3 年生が 1 名しかいない島しょ部の中学校でも生徒募集で訪問し、信頼関係を構築するように努め、一般入試においても地方会場で追検査を実施する際、再度西条会場を設定し、最終的には中学校まで本校教員が出張し、現地で入試を実施した。とにかく今できることを全て行っている状況である。

② 分校

できるだけ中学校訪問をして、中学校教員との信頼関係の構築し、在校生・卒業生の情報をお知らせする。また、矢田分校の生徒は少なからず塾に通っているものも多く、塾の先生は矢田分校の授業の様子や教材、指導方法も塾に通っている分校生徒から聞いて知っている。今後は、そういう塾との連携を密にして、要望・改善点などの「声」を積極的に取り入れる。

また、FC今治との連携により、平成31年度から矢田分校にFC今治U18の生徒が入学するようになり、在籍数の4分の1くらいを占めるようになった。この生徒たちの進路指導をしっかりサポートして信頼を得なければならない。

③ 中学校

中学校の募集に関しては、基本的に塾中心の活動となる。公立小学校は基本的に一私立中学校の募集に積極的に協力をしてくれない。学校説明会のチラシを配っていただけだけでもありがたいと思わなければならない。

その代わり、塾に対しては連携を密にして、塾訪問の回数を増やし、こまめに情報交換しながら協力できることは協力して、要望・改善点などの「声」を積極的に取り入れることが大切である。

※SNSの積極的活用

近年、中学高校生は毎日スマホを長時間使用している。そのため彼らは様々な情報をスマホから得ている。SNSの重要性は日増しに高まり、中学・高校共にまだまだホームページの活用も不十分であり、そのうえでSNSを使い、学校情報をリアルタイムに発信していかなければならない。紙媒体では載せることができないような関係者の生の声等をしっかりと伝えていきたい。また、本人のやる気が出たり、保護者の悩みに寄り添うような子育てのヒントになるような情報も発信していく。

5. 地域連携・地域貢献

令和2年9月に学校法人今治明德学園と株式会社今治・夢スポーツは、連携協定を締結した。また、令和3年9月には理事に岡田 武史氏が就任された。今後は、さらに今治・夢スポーツと連携をはかり、様々な学校行事やイベントのボランティア等で学生・生徒が参加することで、地域が活性化させたり、生徒が生きがいや将来に向かっての何かをつかんでくれるように持っていきたい。

特に、FC今治の試合観戦なども総合的な学習や特別授業として取り入れることも計画している。

6. 働き方改革および教育・研修・教員の採用について

令和3年度4月に中学校に対して労働基準監督署が調査に入り、労働環境の現地監査がおこなわれた。その結果労働時間の管理徹底と残業時間の把握、残業代の支払い等の指導を受けた。

今回は中学校だけの調査であったが、本校・分校も労務管理はできていなかったのが急遽整備している。現在、1年変形労働制、36協定など組合側と調整しているが教職員が働きやすい環境にしながらも経営状況が悪くならないように工夫しなければならない。

また、採用した教員の資質も向上しなければならないが、現在は体系的な新人研修・職員研修ができて

いないので、研修会・研究授業等を活性化しなければならない。

また、教員採用に関しては長期的な視野に立って、教科別教員の必要性を人件費等も考慮しながら効率的に進めていく。